

JRC/全日本ラリー選手権 新城ラリー（最終戦）レポート&総括

奴田原文雄がシリーズランキング3位、鎌田卓磨が同4位を獲得！
2018年もPIAAユーザーが最高峰のJN6クラスで活躍



JN6 シリーズ3位：ADVAN-PIAA-LANCER

JN5 クラスで小濱勇希、JN4 クラスで関根正人はタイトルを獲得！
PIAAのサポートドライバーが2018年のJRCで2クラス制覇を達成



JN5 チャンピオン：シトロエン DS3 R3 MAX



JN4 チャンピオン：スイフトスポーツ

■概要/Outline

国内外のレースシーンで活躍するPIAAは、ラリー競技においても長年にわたり多くの製品供給などで定着している。WRC（世界ラリー選手権）でTOYOTA GAZOO Racing WRTをオフィシャルテクニカルパートナーとしてサポートするほか、国内最高峰シリーズのJRC（全日本ラリー選手権）にてにおいてもADVAN-PIAA Rally

Team を筆頭に数多くのトップチームおよびトップドライバーをサポート。2018 年も各クラスで PIAA サポートユーザーが躍進していた。

まず、JN6 クラスに目を向けると第 2 戦のツール・ド・九州を制した奴田原文雄・佐藤忠宜組がランキング 3 位につけるほか、開幕戦のラリー・オブ・孺恋を制した鎌田卓麻・市野 諒組がランキング 4 位につけるなど最高峰クラスでタイトル争いを展開した。

さらに JN5 クラスでは計 3 勝をマークした小濱勇希・馬場雄一組がタイトルを獲得したほか、JN4 クラスでは第 7 戦の MSCC ラリー in いわきを制した関根正人・草加浩平組がチャンピオンに輝くなど、PIAA ユーザーが 2 クラスでシリーズタイトルを獲得している。

そのほか、JN4 クラスでアルファロメオ ジュリエッタの竹岡圭・佐竹尚子組、JN1 クラスで日産ニスモノートの伊藤隆晃・大高徹也組、ルノー・トゥインゴ GT の大橋逸夫・高橋英悠組ら話題のエントラントをサポートしていることも 2018 年のポイントで、2018 年の JRC においても PIAA ユーザーは記録にも記憶にも残る活躍を披露していた。



JN6 : itzz Rally Team (SUBARU WRX STI)



JN4 : Jms エナペタル ADVAN 久興 86

■レポート/Report

2018 年の JRC はそれまでの全 9 戦から全 10 戦の開催ラウンドが拡大。それゆえに例年以上に過酷なシリーズとなるなか、常に素晴らしい走りを披露していたのが、ADVAN-PIAA Rally Team の奴田原、佐藤組だといえるだろう。

奴田原・佐藤組はこれまでに 10 回にわたって最高峰クラスを制してきたベテランドライバーで、2018 年も 4WD ターボ車両で争われている JN6 クラスに PIAA のライティングシステムおよびシリコンゴムワイパーを装着した三菱ランサーエボリューション X で参戦。第 2 戦のツール・ド・九州（佐賀県／ターマック）でシーズン初優勝を獲得するなど、幸先の良いスタートを切っていた。その後も奴田原・佐藤組は第 4 戦の久万高原ラリー（愛媛県／グラベル）で 2 位入賞を果たすものの、その後は苦戦が続いた。

最終戦の 11 月 3 日～4 日、愛知県新城市を舞台に開催されたい第 8 戦の新城ラリーで好タイムを連発。林道ターマックを舞台に安定した走りを披露、3 位で表彰台を獲得し、ランキング 3 位で 2018 年を締めくくった。

また、itzz RALLY TEAM (SUBARU WRX STI) の鎌田・市野組も PIAA のサポートユーザーの 1 台で、PIAA のライティングシステムおよびシリコンゴムワイパーを装着した VAB 型 WRX を武器に JN6 クラスで躍進。第 1 戦のラリー・オブ・孺恋（群馬県／スノー&アイス）を制するなど幸先の良いスタートを披露していた。そのほか、第 7 戦のラリー北海道（北海道／グラベル）でも 3 位入賞。残念ながらタイトル争いには届かなかったものの、ランキング 4 位で 2018 年のシーズンをフィニッシュした。

一方、2500cc 以上の FF 車両と R3 および R2 などのグループ R 車両を対象にした JN5 クラスでも PIAA ユーザーがタイトル争いを展開していた。なかでも、目覚ましい走りを披露していたのだが、MATEX-AQTEC

RALLY TEAMの小濱・馬場組で、シトロエン DS3 R3 MAX を武器に二輪駆動の最速クラスで猛威を發揮している。同チームでは2016年後半戦および2018年はターマック戦においてPIAAの鍛造ホイールを採用しており、第3戦のラリー丹後（京都府／ターマック）でシーズン初優勝を獲得。その勢いは衰えることなく、第4戦の久万高原ラリー（高知県）、第5戦のモンレー（群馬県・長野県）を制し、3連勝を達成した。その後は優勝こそ果たせなかったが、タイトル争いを支配し続けた小濱は第9戦のMCSCラリーハイランドマスターズ（岐阜県／ターマック）で3位入賞を果たし、最終戦を待たずしてJN5クラスでタイトルを獲得した。第10戦の新城ラリー（愛知県）ではギアボックストラブルに祟られながらも、3位で表彰台を獲得し、コ・ドライバーの馬場雄一のシリーズチャンピオンも決めて2018年の戦いを締めくくった。



JN5：シリーズチャンピオンのKYB DUNLOP DS3 R3 MAX ハイランドマスターズで3位に入りチャンピオン獲得！

また、1500cc～2500ccのマシンで争われるJN4クラスは多彩な車種バリエーションを誇る激戦区だが、同クラスにおいてもPIAAユーザーがタイトル争いを展開した。渦中にあったのは、MATEX-AQTEC RALLY TEAMの関根・草加組で、PIAAのライティングシステムを採用したスズキ・スイフトを武器に安定した走りを披露していた。シーズン途中より参戦したほか、中盤戦では苦戦を強いられたものの、第7戦のMSCCラリーいわき（福島県）でシーズン初優勝を獲得。さらに終盤戦のターマック戦に合わせてPIAAの鍛造ホイールを採用しており、第9戦のMCSCラリーハイランドマスターズで3位に入賞している。最終戦の新城ラリーでも我慢の走りを強いられたが、4位入賞を果たして逆転に成功。0.7ポイントの僅差でJN4クラスのチャンピオンに輝いた。



JN4：KYB DUNLOP スイフト（ハイランドマスターズで3位）

最終戦の新城でシリーズチャンピオン獲得！

そのほか、1600cc以下のコンパクトカーで争われるJN1クラスでは、CINQ Racingの伊藤・大高組もPIAAユーザーの1台として活躍しており、最終戦の新城ラリーではPIAAのライティングシステムを搭載したニッサン・ノートニスモSでシーズン初優勝を獲得。さらにトヨタ86を武器にJN4クラスでランキング4位につけたJmsエナペタルADVAN久與86の山口清司・山本麻美組、トヨタ・GRヴィッツを武器に1500ccの2WD

モデルで争われる JN3 クラスでランキング 5 位につけた ARTA オートバックスラリーチームの石川昌平・竹藪英樹組なども PIAA ユーザーで多くのドライバーをサポートした。



JN3 : オートバックス ARTA GR Vitz



JN1 : CINQ Racing ノート ニスモ S は新城で優勝！

一方、アルファロメオ ジュリエッタで JN4 クラスに参戦した竹岡・佐竹組、全日本ラリー初参戦の RR 車両のルノー・トゥインゴ GT で JN1 クラスの大橋・高橋組ら話題のインポートモデルで参戦したエントラントも PIAA ライティングシステムを搭載したサポートドライバーで、数多くの注目を集めることに成功した。

また、今回の新城ラリーでスポット参戦した TOYOTA 86 を駆るアイルランドから参戦の Shinnors 夫妻もまた PIAA アルミホイール、ライティングシステム等を装着する 1 台で、アイルランドのほか UK のラリーニュースなどでも話題となっていた。



JN4 : アルファロメオ ジュリエッタ



JN1:ルノー トゥインゴ GT



オープンクラスでアイルランドから参戦の Shinnors 夫妻

このように 2018 年の JRC でも PIAA は多くのドライバーおよびチームをサポート。JN6 クラスで 2 勝をマークするほか、JN5 および JN4 の 2 クラスでタイトルを獲得することによって、ライティングシステムおよびシリコンゴムワイパー、さらにアルミホイールなど競技用アイテムのパフォーマンスを証明した。

■ユーザーの声/User's Voice

小濱勇希/Yuki Kohama

MATEX-AQTEC RALLY TEAM/ドライバー

マシン：KYB DUNLOP DS3 R3 MAX (シトロエン DS3 R3 MAX)



「2018年からターマックラリーにおいてPIAAの鍛造ホイールを使用しているんですが、ハンドリングが違いますね。コーナリングでしっかりしているので走りやすいし、インカットしても壊れたり、曲がったりしないので安心感があります。ラリーに合っているホイールだと思いますよ。」

関根正人/Masato Sekine

MATEX-AQTEC RALLY TEAM/ドライバー

マシン：KYB DUNLOP スイフト (スズキ スイフトスポーツ)



「今年はシーズン途中からの参戦でフル参戦ではないんですけど、ターマックではPIAAの鍛造ホイールを装着していました。ハンドリングがしっかりしているし、段差にひっかけても壊れたりしないのでドライビングに集中できます。あとランプポッドにLEDバーランプを装着しているんですけど十分に明るいですね。最初は周囲を照らすだけだと思っていたんですけど、遠くも明るいのでこのクラスならHIDじゃなくても大丈夫です。ナイトステージでは頼りになるアイテムですね。」